



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

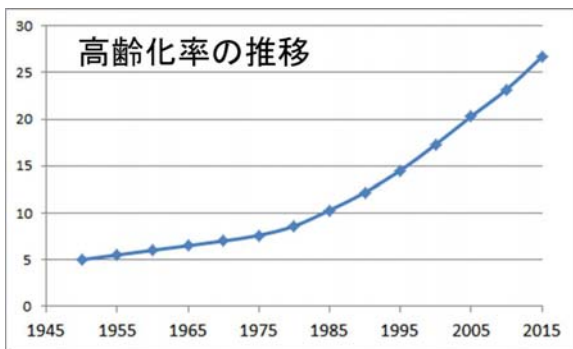
TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

お口の機能低下「オーラルフレイルと口腔機能低下症」

高齢者歯科 科長 佐藤 裕二

高齢化率(65歳以上の方の割合)が26%を超えました。



ただし、残っている歯の数は、着実に増えてきています。80歳で20本以上の歯のある方は、10年前の20%から、今では35%へと増えています。厚生労働省と日本歯科医師会が推進している「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という8020運動は、大きな成果を上げてきました。

しかしながら、歯の数はあるものの、全身のいろいろな病気のため、十分にかめない方の人数も増えています。ロコモ(筋肉、骨、関節といった運動器の障害)や認知症、脳血管疾患などが大きな原因です。しっかりとかめないと、全身の機能も低下し、虚弱(フレイル)になるとも言われています。

そこで、それを防ぐために、お口の機能が少し低下した状況を適切に把握し、機能の維持・向上を図ることが重要となっています。お口の機能が少し低下し始めた状態を「オーラルフレイル」といい、さらに下がると、「口腔機能低下症」と呼びます。機能が非常に低下すると、「口腔機能障害」となります。これを早い段階で見つけて、治療やリハビリを行うことが、全身の機能の低下を防ぎ、要支援や要介護状態を防ぎます。

お口の機能の低下には、以下のものがあります。心当たりがあれば、ご相談ください。



- ・お口の中が不潔になる
(清掃しづらくなる)
- ・お口が乾燥する(唾の量が減る)
- ・かむ力が低下する(咬むための筋肉が弱くなる)
- ・しゃべるのが遅くなる(滑舌が悪くなる)
- ・舌の力が弱くなる(舌の筋肉が弱くなる)
- ・食物がかみにくくなる(歯や筋肉が衰える)
- ・飲み込みにくくなる(むせやすくなる)

これらを診断するには、口腔機能の検査が重要です。4月からいくつかの検査が認められたので、当院でも、実施できるように準備を始めました。詳細は次ページです。

簡単な滑舌の自己診断をしてみませんか。秒針付きの時計を準備していただき、下の「**ぱたか**」を順に差しながら、10回しゃべって、かかった時間を計ってみてください。スマホのストップウォッチでもいいです。5秒以上かかった場合は、要注意です。

ぱたか ぱたか ぱたか ぱたか ぱたか
ぱたか ぱたか ぱたか ぱたか ぱたか

私たちは、歯を失った方へ入れ歯やインプラント治療をするだけでなく、お口の機能の維持・向上が重要と考えています。

高齢者歯科 紹介

先日、厚生労働省が発表した「簡易生命表」によれば、日本人女性の平均寿命は87.05歳、男性は80.79歳でいずれも過去最高を更新しました（それぞれ、世界1位は香港でした）。日本人の平均寿命は戦後間もない1947年で男女とも50歳前後でしたが、女性は1960年に70歳、1984年に80歳を超え、男性も2013年には80歳に達し、世界一のスピードで高齢化が進んでいます。

その様な中、当診療科では、70歳以上の方と65歳以上で基礎疾患があり、お身体の状態を観察しながら治療を行わなければならない方や、医科の先生との連携が必要な方の診療全般を行っております。また、高齢者に多い、高血圧、糖尿病、認知症などの方に対して安心・安全な治療を行うために、歯科麻酔科、顎顔面口腔外科をはじめとする各専門診療科と密に連携をとりながら治療を進めています。さらに、近隣でご開業の先生からのご紹介に関しても、速やかに対応できるような初診体制を整えています。

診療は、主任教授の佐藤裕二以下15名の医局員と8名の大学院生がチーム体制で外来診療にあたっております。メンバーの中には、日本老年歯科医学会、日本補綴歯科学会、日本口腔インプラント学会の指導医・専門医を修得した歯科医師が多数在籍し、患者さんには充実した高度先進医療を、学生・臨床研修医・若手ドクターには一般診療から専門分野までのきめ細かな指導を提供できるよう努めております。

さて、巻頭言にありました様に、お口の機能の状況を適切に把握するためには、口腔機能の検査が重要です。当診療科でも、保険に収載された検査の準備を進め、関東信越厚生局へ施設基準の届出も終了し8月から実施可能となりました。その一つ「有床義歯咀嚼機能検査」をご紹介します。有床義歯咀嚼機能検査とは、有床義歯(入れ歯)を装着する時の下顎運動と咀嚼能力を測定

することにより、有床義歯装着による咀嚼機能の回復の程度等を客観的かつ総合的に評価し、有床義歯の調整、指導及び管理を効果的に行うことを目的として行うものです。具体的には、顎の運動を測る装置を装着し、グミゼリーを一定時間咀嚼させ検査を行います(写真)。これによって、客観的な判断が可能となり、義歯(入れ歯)による機能の向上が確認できます。

この様に、最新の技術を導入しつつ今までに修得したスキルの向上に努め、医局員一同、日々診療に取り組んでおります。お口の事で何かあれば、何時でもご相談下さい。

高齢者歯科 准教授 北川 昇



センサーを装着して、検査用のグミを噛んで検査を行っている様子



高齢者歯科 スタッフ

閉塞性睡眠時無呼吸症候群について解説します。

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二



7月号で補綴歯科の馬場先生と葭澤先生、歯科麻酔科の増田先生が閉塞性睡眠時無呼吸症候群について書かれたので反響が大きく、今回はこの症候群の基本情報をご紹介します。

閉塞性睡眠時無呼吸症候群とは睡眠中に空気の通り道である上気道(喉頭から鼻腔・口腔まで)が閉じてしまうため、呼吸が何回も止まり、ぐっすり眠ることが出来ない病気です。大きなイビキや呼吸停止、夜間の不眠、起床時の頭痛、日中の強い眠気などの症状があります。

これらの症状のうち日中の眠気のために仕事に支障を来し、居眠りによる事故など社会生活上重大な影響を引き起こすこともあります。またこの症候群を長期(例えば5年以上)放っておくと高血圧症や虚血性心疾患や脳血管疾患などの合併症が起こる確率が増えることが科学的に証明されています。

閉塞性睡眠時無呼吸症候群の診断ですが、当院に併設する内科クリニックで携帯型の診断装置の貸し出しを行い自宅にて検査することができます。就寝前にその装置のセンサーを体に装着し、血液中の酸素の状態、鼻呼吸の状態、呼吸時の腹部の動きを就眠中に記録します。測定は二日間行い、装置返却後、およそ2週間で検査結果が得られます。なお装置の台数が限られているため、診断ご希望の方はお早めに内科クリニックを受診されることをお勧めします。

この装置の解析により10秒以上の呼吸停止や10秒以上の低呼吸(通常の呼吸換気状態の半分以下になる状態)が睡眠中の1時間に5回以上あると判定され、かつ日中、過度に眠いという評価が得られた場合に本症候群と診断されます。

歯科病院での治療は前号で紹介した口腔内装置、内科クリニックでは装置を用いて就眠中に圧をかけた空気を鼻腔から流す経鼻的持続陽圧呼吸療法(写真)が行われます。なお無呼吸や低呼吸が睡眠1時間あたり5回以上の全ての方に口腔内装置は保険適用されますが、陽圧呼吸療法は無呼吸低呼吸が20回以上の方に限り保険適用されます。

口腔内装置は本症候群の診断書をお持ちの方でしたら、初診時に歯型を記録し、一週間後に装置を装着します。その後の調整は全く必要ない方から二回程度の調整が必要な方まで様々ですが、長期間使用する前に紹介医または内科クリニックで装置の効果を診断して頂きます。この口腔内装置は残存歯数が少ない方、歯周病が進行している方、顎関節症で顎関節の疼痛や違和感が強い方には適用できません。一方、経鼻的持続陽圧呼吸療法は鼻閉の方や陽圧の空気に慣れることができない方には適用できません。鼻閉の方は耳鼻科医の受診をお勧めします。

詳しいことをお知りになりたい方は当院の担当歯科医または内科クリニックの医師にご相談下さい。

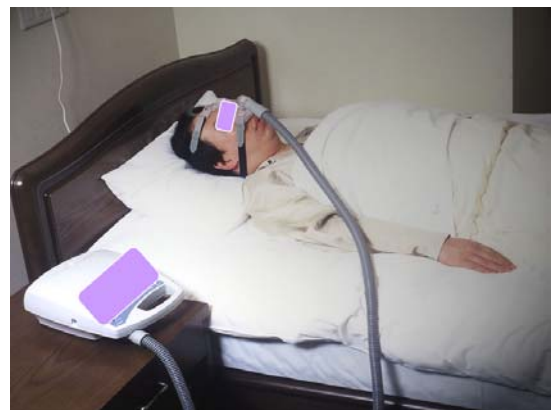


写真 経鼻的持続陽圧呼吸療法

歯科技工室 紹介

昭和大学歯科病院歯科技工室には、国家資格を持った歯科技工士が15名在籍しています。私達歯科技工士は、製作する歯の色を見させていただいたり、形を相談させていただいたり、よりよい修復物(かぶせもの)を作るために、積極的に患者さんと対面させていただいております。そして患者さんの、会話する時や笑った時の表情とか唇の動きなどを見ることで、多くの情報を得ることができます。そうすることで、より機能的で審美的にも満足いただける、質の高い歯科技工物を提供できると思っております。また、近年話題となっているトレーサビリティ(歯科技工室において使用する全ての材料に関する生産～加工に至るまでの段階の追跡可能)を担保しております。歯科技工室において使用する材料・機器は全て薬事法により医療機器材料として認可を受けており、使用法も遵守して作業を行っています。

また、昭和大学では、10年前から学部・病院が一体となって高度先進医療を目指し、3年前には「デジタルデンティストリー」の一環として「昭和大学Digital Laboratory」を併設しました。CAD/CAMと呼ばれる機械が多数装備され、CAD機(コンピュータを用いてデザインする機械)7台、CAM機(コンピュータ制御された機械でのミリングする機械)4台が配備され、大学病院の施設として日本一を誇っております。ジルコニア(別名:白い金属)という素材を使用したオールセラミッククラウンや保険適応のCAD/CAMを用いた小臼歯部のクラウンなどを中心に院内製作で対応しております。

昭和大学歯科病院では、メタルフリーを掲げアレルギーを起因させないオールセラミック治療を推進しており、現在ではセラミック修復の8割がメタルフリーとなっております。前述のCAD/CAMと呼ばれる機械を使用し、ミリング(素材を削って形にする作業)し、そこに専門家である人間の手(歯科技工士)を入れることで、より患者さん一人一人に合ったオーダーメイドの質の高い歯科技工物を提供していけると思っております。また義歯(入れ歯)や矯正、歯ぎしり防止、スポーツマウスガード、など様々な分野においての専門知識を持った歯科技工士が在室しています。

来院された患者さんのQ.O.Lの向上為に！
笑顔のために！ 今日も全員で頑張っております。

歯科技工室 責任者 鍛治田 忠彦



昭和大学 Digital Laboratory



歯科技工室 スタッフ

編集後記

先月号でお口の機能について解説しますと書きましたが、オリンピックの話題とさせていただきます。

リオ・オリンピックを毎日寝不足になりながら応援しています。いろいろな種目があるとはいえ金メダリストは人類71億人の頂点でメダリストは人類71億人のベストスリーとなります。数人で行う「かけっこ」でさえ、一番になるのはたいへんなのに(あくまでも筆者の経験)入賞者を含め、オリンピック選手たち 皆、尊敬します！！
頑張れ、ニッポン！！

(K.T)



写真は米国でオープン参加したバルセロナ五輪予選会の柔道トーナメント後の写真。
向かって左が25年前の筆者です。